

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して 増加 減少 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	1,092	1,280	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	33	34	ヘルパンギーナ	3	7
咽頭結膜熱	23	21	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	61	45
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	63	81	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	549	497	流行性角結膜炎 (はやり目)	12	20
水痘	90	73	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	1	2	無菌性髄膜炎	0	1
伝染性紅斑 (りんご病)	8	2	マイコプラズマ肺炎	3	2
突発性発しん	30	42	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い
感染症

- ☀ インフルエンザ
- ☀ 感染性胃腸炎
- ☀ 水痘

- インフルエンザは、報告数 1,092 件(前週報告数 1,280 件)と減少。
地区別では、山鹿、有明、菊池に多く報告がみられる。
年齢別では、10～14歳の244件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 549 件(前週報告数 497 件)と増加。
地区別では、山鹿、菊池、有明に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の95件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 水痘は、報告数 90 件(前週報告数 73 件)と増加。
地区別では、菊池、宇城、水俣に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の26件を最多に、8歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性レンサ球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	140	4	2	39	193	37	0	6	11	0	0	15		10				1
山鹿保健所	96	0	0	0	61	3	0	0	3	0	0	0	*	*				
菊池保健所	171	2	11	6	70	21	0	1	3	0	0	5						
阿蘇保健所	56	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	33	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	*	*				
八代保健所	42	5	6	5	41	4	0	0	1	0	0	1						
水俣保健所	48	0	2	0	10	5	1	0	1	0	0	19	*	*				
人吉保健所	98	16	0	3	33	0	0	0	1	0	0	0	*	*				
有明保健所	242	1	1	0	86	6	0	0	3	0	0	2		2				1
宇城保健所	72	1	0	4	31	12	0	0	4	0	1	7						
天草保健所	94	4	1	5	16	0	0	0	3	0	2	11						1
計	1092	33	23	63	549	90	1	8	30	0	3	61	0	12	0	0	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	1092		2	8	35	35	52	65	77	100	84	64	85	244	40	36	53	31	22	23	10	26
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	33	7	14	9		2		1														
咽頭結膜熱	23			1	7	3	2	4	3	1		2										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63				3	3	6	9	11	6	3	6	2	10								4
感染性胃腸炎	549	3	33	95	55	40	53	37	37	38	25	21	63	11	38							
水痘	90	3	1	26	17	14	12	8	6	2	1											
手足口病	1					1																
伝染性紅斑	8				2	2		3		1												
突発性発しん	30	1	12	15	2																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	3				1	1			1													
流行性耳下腺炎	61	1			5	8	10	17	6	9	1	1		2	1							
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	12		1												1	3	3	1	1			2
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	3			1			1	1														
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生 又は継続しつつある地域

インフルエンザ：山鹿・菊池・人吉
有明・宇城・天草

感染性胃腸炎：山鹿
流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ 感染性胃腸炎



県全体のインフルエンザの患者報告数は減少を続けていますが、警戒レベルは継続中です。インフルエンザ迅速検査の診断情報では、インフルエンザB型の割合が徐々に増えてきており、今週は7割近くがインフルエンザB型でした。
感染性胃腸炎の報告は、1月以降減少していましたが、ここ2週間続けて増加しています。一般に、秋から年末にかけてはノロウイルスが、1月から4月にかけてはロタウイルスが主に流行すると言われており、県内の医療機関からの報告でも、ロタウイルスによるものが増加しています。主な症状は嘔吐と下痢ですが、ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く、重症度が高いとされています。通常1歳を中心に流行がみられますが、保育所、幼稚園、小学校などの小児や、病院、老人ホーム、福祉施設などの成人でも集団発生がみられることがあります。患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれていますのでその処理には十分注意する必要があります。食事前やトイレの後などにおいて、せっけんを使ってしっかりと手を洗うことが大切です。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課